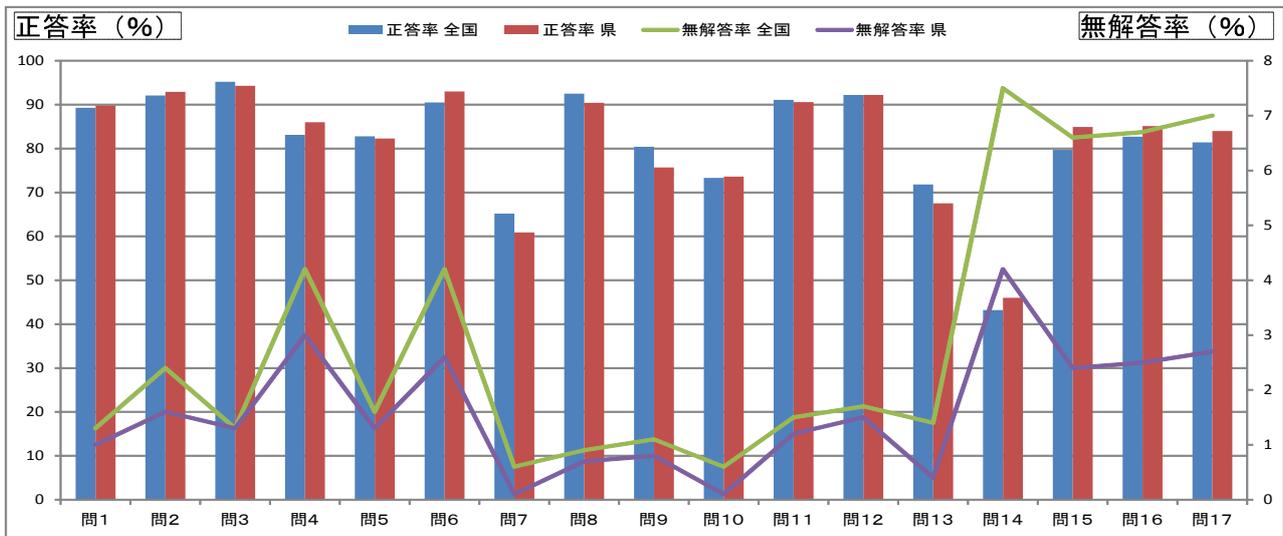


平成24年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に活かすために

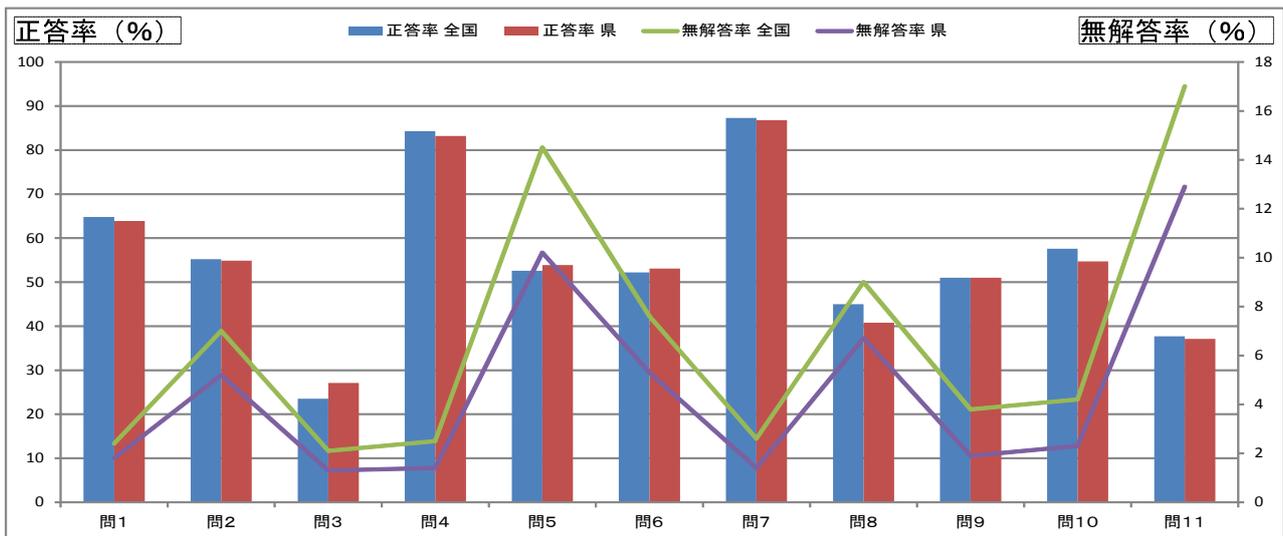
国語（小学校）

県北教育事務所

〔小学校国語 A〕 ※ 各設問ごとの正答率（棒グラフ）・無解答率（折れ線グラフ）：全国（公立）県平均比較



〔小学校国語 B〕



【結果】

- 漢字の読み書き、慣用句の意味の理解、漢字の筆順や必要な事柄を整理して、適切な主語と述語、修飾と被修飾の関係で簡潔に記述する等、言語に関する基礎的・基本的な知識技能の問題はおおむね全国平均を上回っている。
- 全ての問題において無解答率が全国平均より低く、自分なりの解答をもつ意識が高い。
- 資料や図表から情報を読み取り、必要となる事柄を的確にとらえたり整理して簡潔に書いたりすることや複数の情報を関係付けて読み取る問題で全国平均を下回る傾向にある。
- 目的や意図に応じ、書き手の意図を推論したり、そのことに関する自分の考えをまとめたりすることに課題が見られる。

【成果と課題】

- 基礎的・基本的な知識技能の定着を図る学習に地道に取り組んできた成果が現れている。
- 授業において自分の考えをもたせる場や書く機会を大切にしている。
- 特に次の点を課題として改善を図る。
  - ・ 資料から収集した複数の情報を関係付けながら話し合うこと。
  - ・ 資料や図表から情報を読み取り、必要となる事柄を整理して簡潔に書くこと。
  - ・ 目的や意図に応じ、複数の情報を結びつけたり、書き手の意図を推論したりしながら読み、自分の考えをまとめること。
  - ・ 学校や地域等の図書館を積極的に利用して、読書の習慣を付けること。
  - ・ 自信をもって自分の考えを説明したり、文章に書いたりすること。

## 【今後の指導改善】：(県)

- ◇ 言語活動の充実
- ◇ 様々な資料から情報を的確にとらえる指導の工夫
- ◇ 複数の情報を関連付ける指導の工夫
- ◇ 自分の考えをまとめる指導の工夫
- ◇ 学校図書館の有効利用

### 〈県北の視点：「確かな学力」の向上のために〉

#### ◇ 「学級・学習集団づくり」「生徒指導の機能」を活かして

子ども一人一人が自分らしさを発揮し、それを集団の中で認め合い、高めていくことができる基盤があってこそ授業が成果のある学びになるのである。そこで、国語科の授業においても、言語活動への取組みを活かし、特に次のような点を大切に、学習の効果を高めたい。

- ・ 自分の考えを安心して表現し合う。
- ・ 学び合いの中で多様な「考え」のよさを実感する。
- ・ 互いを認め合う中で、吟味、検討ができる関係を醸成する。

#### ◇ 充実した授業づくりのために

※ ( )：「充実した授業づくりのために」との関連

- 効果的な言語活動を位置付けた指導構想の工夫 (意図的な習得、活用、探究の取組み)
- 目的意識や相手意識を明確にした単元を貫く言語活動を位置付けているか。
- 目的や意図に応じて多様な教材文や資料から情報を読み取ったり、複数の情報を比較・関連付けを図ったりして活用する言語活動を位置付けて単元構想を工夫しているか。

例えば、「自分の考えが伝わるように書く」ことを単元の目標とする場合、テーマを提示するだけでなく、「誰に」「何のために」「どのような方法で」書くのかを明確にする。このことで学習内容が明らかになるとともに、必要感をもって情報を読み取ったり、比較したり、選択したりし、それを活かして書く力を育むことができる。

- 自分の考えをもち、学び合う学習の充実

(自分の考えをもたせる場の工夫/効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」)

- 理由や根拠に基づいて自分の考えをもてるような発問や指示、指導を行っているか。
- 共通点や相違点に着目し、話し合う中で自他の思考の違いやよさに気付く学び合いになっているか。

例えば、説明的文章において「自分の考えを明確にして読む」場合、教材文の段落毎の要点をまとめるだけに終始せず、筆者がどのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているか、どのような意見、主張、論証で読み手を説得しようとしているか等を問ひかけ、そのことからどのようなことを考えるのかを十分に話し合うことができるようにしたい。その際、教師は、共通点や相違点を視点として話し合えるように指示を行ったり、板書で整理して提示し、視覚的にとらえられるようにしたりしながら考えを吟味できるような指導を行うことが重要となる。

- 言語環境充実の基盤としての読書活動推進

- 学校図書館が「読書センター」「学習情報センター」としての機能を発揮しているか。
- 授業に関連させて読書意欲を高める働きかけを行っているか。

例えば、学校全体で計画的に、教科書に紹介されている関連図書を学校図書館や公共の図書館から準備したり、調べ学習に必要な図書や資料を計画的に整備したりする。また、朝の読書活動や日常生活における読書と関連づけて、授業の読書紹介等で取り上げるなどして読書の面白さを実感させ、意欲を高めたい。その際、教師が率先して子どもを学校図書館に連れて行ったり、活用させたりしてより多くの図書に出合わせる事が重要である。